

人生の誇り

有里 卓雄（5組）

私は本校卒業後、三年間の社会経験を経て昭和三十六年四月、鹿児島県警察官を拝命し、以後四十年間の警察勤務を経て平成十二年三月に定年退職した後、県自家用自動車協会、県安全運転管理協議会に再就職して平成十九年五月に退職しました。



退職後は、自宅で家庭菜園や警察在職時に五十の手習いで始めたゴルフを続けており、その間に本当にまぐれではありませんが、高牧CCと鹿児島国際CCでそれぞれホールインワンを達成できたのが最大の喜びでありました。



現在は、南国CCで満八十八歳になるまで健康に留意してゴルフを楽しみ、心身ともに健全な状態で米寿を迎えようという趣旨の「米寿会」に入会して、ゴルフ愛好者とのランドプレーに励んでいます。また、警察退職後十一年目の平成二十三年春の叙勲で、はからずも警察功労ということで「瑞光双光章」を授与されました。私の四十年間の警察功労ということですが、妻の内助の功もさることながら、これもひとえに皆様方の長年にわたるご指導ご支援の賜物と深く感謝している次第です。

平成二十三年六月、夫婦共々皇居に参内し「豊明殿」において、天皇陛下に拝謁の榮譽とともに国民の生命、身体、財産の保護に奉じられ、崇高な任務とご苦労に感謝の意を表しますとお言葉を賜り、感激の極みでありました。

今後は、この榮譽を汚さないように努力精進し、夫婦共々心身ともに健康に留意し、与えられた人生を謳歌して行こうと思っ

八期通信アーカイブス

2009年 第15号
竹之内 望彦（1組）



夏休みにニチレイの冷凍倉庫で荷役作業のバイトをやった。重労働である。事務所に行って、係りの方に今日からお願いしますと挨拶をして現場へ行った。

すると、既に5~6人の体の大きいバイト生が来ていた。よく見ると、我が校の1級又は2級上の空手部とカッター部の恐~い先輩達だ。これは、そのうちに何事があるぞ、と思った。

案の定、一週間位経った頃、先輩たちの首領格と呼ばれた。「竹之内、お前は工場長に掛け合って、我々の賃上げをして来い」まいったな、と思ったが断れない。

仕方なく意を決して事務所へ行った。工場長は、話を聞いてくれて「それは、誰が云っているのか？」と聞かれたので「私も含めて全員です」と答えた。

1~2分、間を置いて「それは駄目です」との答え。困った、先輩達に何て云おう。正直に云うしかない。「先輩、駄目だそうです」シーン（1分位）「いいよ。竹之内、お前よくやった。それでいいよ」と、首領格が云ってくれた。疲れがどっと出た。

しかしその後、その先輩達は学内、学外でとてもよくしてくれた。工場長は最後の日にうちの会社に入社しないかと云ってくれた。

《 ついでに・・・ 》

業界のグループで沖縄へ行った時、とても暑い日で冷奴でも食べたいねと誰かが云いだし、絹豆腐がいいとか木綿の方が好きだとか、てんでに云っていた。

そこで「夏はきぬ」でしょう。おあとがよろしいようで。

八期通信アーカイブス

2007年 第13号
植村 登美代（6組）（旧姓、川上）



高校を卒業して48年という長い月日が過ぎ「黄昏の人生」といわれる年齢になりました。

今、振り返ってみると、何歳になってもその時気付いた事をやってみるか？すぐ行動に移すことで、思いがけない出会いがあることに気がきました。

ささやかな事でも私の心、生活に潤いを与えてくれる楽しみを持ち、毎日を元気で「ストレス」のない生活を送っています。それは、後程書くことにしまして。

高校時代の思い出は、今は亡き、南園茂さんと運動会の仮装行列で、道化師「ジェルソミーナ」に扮して、あの物悲しいトランペットの曲に合わせ、頭の足りない女になり、彼と校庭を一周したあの勇氣は、私の生活の何処かにプラスになっています。懐かしい思い出の一つです。

私は、高校を卒業して間もなくの19歳の春、明るく、誰からも好かれていた母を亡くしました。4人の娘を残して逝った母は、どんなに残念だったことでしょう。

その時父は、52歳でした。父は途方に暮れ、4人の娘を抱くように「母ちゃんのみまで、お前達を大切に作るからね！」と、一人の花嫁姿も見ずに亡くなった母に、父は深い悲しみだったことでしょう。

父は、母のみまで長生きして、4年前に98歳でこの世を去りました。

父は再婚もせず、私の家族と同居することになり、父の愛情をいっぱい受けた三人の私の子供は、素直に育ってくれました。